幼兒の製作の新しい指導

及川ふみ

幼児の製作の指導の実際の面で、もつとも欠けている点は幼児の成長発達の段階の理解の不足ということが云える。新らしい幼児の製作の指導にあたつて最初に考えられなくてはならないことがこの幼児の成長発達の状態の理解であると思われる。

アーノルド・ゲゼル著、心理学（出生より五才まで山下俊郎訳参照）の文化材に対しての変化の中から、幼児の絵画製作に直接関係の深い事項を抜いてみると、

〔一才半〕

描画

○腕全体を動かす。

○紙の上に描くことはほとんどない。弓なりに描くことが多い。

○一色だけで満足する。

〔二才〕

描画

○一才半の頃より手首の動きがよくなる。

○色におかまいなしに紙をごしごしこする。いく種類もの色を強くぬりかさねるので、にごつた色になつてしまう。

○縦横の直線、点および円を描いてみる。

○紙からはみ出す。机、画架、床、自分の手、友だちにぬりつける。

○こどもにとつては描く過程が大事なので出来上りが大事でない。

○気がちりやすい、手の動きをいつもみているという工合にはいかない。

○一枚の紙の上に他の子どもと一緒に描くという社会的な楽しみをもつ。

指絵

○絵具の手ざわりや、手のよごれることをはじめはきらう、しかし数回やつてみると面白がるようになる

○手全体がリズミカルに動ノ

粘土

○粘土の手ざわりや手のよごれることをはじめはきらう。しかし数回やつてみると面白がるようになる。

○手でいろいろといじる、たたいたり押したり、小さくちぎつたりする。そしてよく大人へ手渡しする。

○粘土と一緒に他の材料を使う、たとえば舌おさえや、積木、自動車木製動物。

絵

○あまり細くなく、はつきりした色

を使つた単純な絵を好む。

雑

○触覚はするどい。

○粘土、絵具、クレオン、などのようないろんなものをなめてみる、ガラスや木にも舌をつける。

○この年令では模倣がはげしい。

〔三　才〕

描　画

○筆のタッチが強くあらわれてくる。

○形の持つたものが表われる。

○しばしば一色で紙全体をぬりつぶすことを喜ぶ。

○年上の者とか絵のうまい子の絵をみることにより刺戟される。

○自分のかいたものに喜びと誇とをもちみせびらかす。

○外のものと一緒の紙を使うことを好まない。

指　絵

○手全体の運動のみでなく、指の運動が明瞭になる。

○少し形があらわれる。

クレオン

○変化した色を使いたがる。

○えのぐよりクレオンの方が早く形が出来てくる。

粘　土

○たたいたり、手で穴をつくつたり、ねじつたりしていじくりまわすことを喜ぶ。

○ボールを作つたり、細長く形をつくつたりして形が出来てくる。

○実物に大体にたものに命名する。

○幼稚園で家の人の為に特に母親のためによき作品をつくるが家に持つて帰るのをしばしば忘れる。

〔四　才〕

描　画

○大人の様な仕方で鉛筆をもつ。

○一つの絵に長い間注意を持続してかいている。

○絵をかきながら考えが変化して題材が変つたりする。

○絵をかきながら言葉により説明をくわえる。

○子供にとつて重要な部分をもつとも大きくえがかれる。

○自己批判が出来る。

○えがいたものを家にもつていきたがる。

粘　土

○表現力、想像力が急速に発達する。

○作品に色をぬることを喜ぶ。

○作品を保存することを望む。

所有物

○外の人に自分のものをみせじまんする。

○特定の友人に対し、自分のものをわけてやる。

○大きなペットの様に大人用所有物をじまんする。

○幼稚園でつくつた自分の作品について強い固着力をもち家にもつて帰りたがる。

○所有物の交かんが始まる。

〔五　才〕

描　画

○はじめから一定の意をもつて描く。

○描いたものが大てい何を描いたかわかるものが多い。

○絵はたいてい簡単なもので三つか二つの部分をもつている。

○子どもにとつて一ばん大切な部分を大きくかき花の方が家より大き

くなることがよくある。
○色を知つていてその名称を正しくいう。
○描く対象に人、家、舟、汽車、自動車、動物、太陽のある風景などである。
○しばしば考えたものを描きあげる力のないことを自覚する。

粘　土

○一般に一定の目的をもつていてつくつたものはそれと判断出来るようなものを作るすなわち贈物をつくつたり、人形遊びやお店ごつこなどのごつこ遊びに使うものをつくつたりする。
○作つたものに色をぬることが多い。

以上はアメリカの保育学校においてミスジャネットラーンドの観察記録によるものである。民族的の大なる素質、環境の差異のある点は考慮しなければならないが、一つの参考資料である。

次に直接に指導に当る対象幼児の実体調査によつて幼児個人個人の発達状態を理解することである。

これは入園当初の家庭状況調査による幼児の環境のうち特に絵画製作の指導の上に参考資料となる次の諸点の調査が考えられる。

○クレオン或は鉛筆、絵具等各何カ月頃より与えはじめたか。
○描画について形があらわれたのは何カ月頃であるか。
○鋏を与えたのは何カ月頃であるか。
○絵本をみはじめたのは何カ月頃であるか。
○現在家庭で与えている絵本は何か。
○兄弟その他の家人より幼児の描画及び鋏使用などの製作に直接に関係して影響を受けているか。

などの諸点の調査の結果によつて、入園前にすでにクレオンや鉛筆などの使用にしたしんでいるものとしたしんでいないものと、鋏が使えるものと、使えないものなどの状態が判明していると個人個人に適切な指導が出来ることになる。

即ち家庭生活から幼稚園生活への移り変りに対しての入園当初の疲労を出来るだけ少くして、早く幼稚園生活の楽しさが味わされることにもなる。

ここに一例をとると、描画について、全く経験のなかつたものだけを一団として、はじめて絵をかかせてみると、お友達の誰もが同じ状態であるので平な心もちで描画に入ることが出来るが、もしもこの区別をしないで雑然と描画に入ると、描けるものはよいとして描けないものは、描画の第一歩において、劣等感をもつこともあろうし描く興味もそこでくじかれる結果ともなることが考えられる。又鋏などの使用についても家庭で今まで使用を禁じられていたものなどが、幼稚園では友達が使つているのを見て、異様な気持ちをもつことも考えられるから、幼稚園で始めて鋏を使用するものだけ一グループを作つてこれに指導者も入つて、鋏の使い方に、きけんもなく、面白く使えるものである実際の有様を示して次第に安定した気持ちで鋏使用が出来る様に進めたい。

昭和二十八年四月入園したお茶の水附属幼稚園の幼児たちのその実体調査は表の如くである。

この種の調査によづて、地域的環境により、家庭環境によつて年令的

画をかきはじめた時期　昭和28年4月調査

	3才児		4才児	
	男	女	男	女
1年	1	4	1	
1年半	1	1	1	1
2年	3	5	4	2
2年半	6	6	3	2
3年	6	1	3	10
3年半		1	3	4
4年			5	3
4年半				
計	17	18	20	22

はさみを使いはじめた時期　昭和28年4月調査

	3才児		4才児	
	男	女	男	女
1年半		1		
2年	1	3	1	1
2年半	4	2	3	3
3年	9	9	7	11
3年半	1	3	4	4
4年			4	2
4年半				1
はさみを使つたことがない	2		1	
計	17	18	20	22

にその遅速の相違のあらわれることは当然なことである。

以上の一般的の発達の特徴と、個人的の発達の状態との二つの基盤の上に、指導の目標をたてて製作指導の実際にあたるときは製作への真の興味も自ら湧いていくものであろう。

製作への興味

製作への興味について二つのことが考えられる。

その一つは、物をつくる過程を楽しむ興味、これは粘土製作の始期にも、紙製作の始期にも、ともにその作る過程を楽しみ、ものを切る過程を喜ぶのである。この点において製作の指導の初期にはその過程を喜ぶ材料を充分に備えて、その欲求を満足させなくてはならない。

次の一つは、作りおわつたものが、直ちにおもちやとして幼児たちの遊びに役立つものに深い興味がもたれるものである。

汽車ごつこ遊びに必要な、おもちやの品々。お店ごつこ遊びに必要な、おもちやの品々。

これらのおもちやの製作には、その作り方の巧さよりも、大まかに作られてすぐに役立つものに大きな満足が見られる。

創意と工夫

製作への興味が次第に深められて来ると次にその指導の上に期待されることは、幼児の製作に対して、その創意と工夫のあらわれである。この創意と工夫に到達する為に、この指導を秩序立てて考えられたとも云える。創意と工夫によつて、幼児の独創的な作品へと誘導を進めるのである。

製作の材料の広さ

幼児の製作の材料は出来るだけ広い範囲に求められたい。それは材料によつてそれぞれの特質をもつている。粘土は粘土としての特有の味をもち、紙は紙で又独自の製作の材料味があり、自然物は又自然物としての長所がある。それに対する幼児たちもその好む材料に自ら広い幅をもたせて、いずれの材料に最もその製作の意欲の満足が得られるか男児と女児の間に差があり、年令の上に差があり、さらにその個性の異によつても又差が大きいのである。いずれの材料に興味が最も多くひきつけられるかは実際にぶつかつてみた上でないとはかりしられない場合が多い。そこで特に好む材料を充分に与えて興味を一段と深めて、創意工夫の芽を育てていくのである。

尚この材料を範囲広く求める点から考えて、新らしく作られて来る化学的製品の新らしい材料、例えばビニール製や、プラスチック製の玩具の出現と同様に、幼児の製作の材料としてその条件に伴うものがあれば（経済的の面や能力の点、その他の点において）これを材料として取扱うように考えたい。現在のところでセロファンテープなどその例で、美しい色、その手ざわりのよさ、安価である点など新らしい製作の材料としてとりあげられてよいものの一つである。幼児の能力、時代の進運などに少しの関心もなく、習慣的にくりかえして作られるもの、又その材料、その指導の方法などに創意と工夫のないところに、幼児の製作に創意と工夫を求めるのはあまりに一方的の考えではなかろうかと考えたい。